

【むつごろうの会】

「ハンカチを持ってみんなで一緒に歌いましょう」。都はるみの「好きになつた人」が流れる中、高齢者と握手を交わす会員たち。感極まって涙ぐむ人もいます。高齢者施設訪問を続ける活動での光景です。「喜ばれる姿が目には焼き付いて、それをまた見たいからやっています。どちらが癒されているかわかりませんが」と代表の眞島永治さんは笑顔で話されました。



訪問の最後で別れを惜しむ高齢者たち

高齢者同士で支え合い



手作りの衣装での踊りも見どころのひとつ

会を作ったきっかけは、高齢者大学。眞島さんも含め、佐賀県高齢者大学14期（平成17年度卒業生で構成されています）。

卒業式で「ここで学んだことを生かして社会に貢献して下さい」という知事の言葉が胸に響き、自分たちでできることをやってみようと思い、この活動をスタートさせました。

卒業して1ヶ月後、23人の会員が神埼町のロイヤルケア神埼を皮切りに以降5年間、月に1度高齢者施設への訪問を続けています。

活動は、会員たちの趣味や特技を生かして歌や踊りなどを披露するスタイル。振り付けはもちろん、衣装までも手

作りで、すべてを自分たちの手で行います。最初は会員が手分けをして訪問する場所を探していましたが、今では口コミで評判が広がり、活動範囲も神埼市内はもちろん県内全域に広がりました。

「うちは、全員が役員。代表者は私だが、たまたま男性が少なかったからやっているだけです。それぞれの得意な分野を生かしてやっているので苦ではありません。『無報酬で大変じゃないですか』とよく言われますが、逆にお金をもらうの方が大変ですよ。自分たちの意志で、好きだからやっている。だからこそ続てきたのだと思います。『来てくれてありがとう』、また来てください」と言われることで、私たちの方が元気をもらっています。眞島さん。

不安があるとなれば、運営している会員たちも高齢者なので健康問題といつことです。現在、会員数は16人。平均年齢も70歳と上がってきています。入会希望の問い合わせもありますが、今のところ増員の予定はないそうです。

目標はこの活動を続けていくこと。眞島さんは「そのためには、自分たちが健康でいなければいけませんね」と話を締めくくられました。

一人ひとりが生き生きと暮らす元気な神埼を。市民の立場で、住みよいふるさとづくりに取り組んでいる団体をシリーズで紹介しています。



とても若々しいむつごろうの会の会員たち

平成18年3月に結成以来、月に1度県内の高齢者施設を訪問している。現在会員は16人。3月17日に神埼町の「デイサービスセンターきぼう」へ訪問予定です。

「むつごろうの会」代表 眞島 永治
神崎市神埼町的1464-3 TEL0952-53-1058